



つるがしま里山サポートクラブ 通信

第6号
2022. 01. 01
発行責任者
小澤邦彦
編集責任者
杉山行汪

太田ヶ谷の森の植樹

副代表

小沼 英二

わがクラブは市内に残された里山・樹林地を次世代の人たちへ継続していくことを活動目的としています。具体的には市民の森として登録された市内の3か所の森（五味ヶ谷、高倉、藤金）の整備・保全活動とそれに関連する様々な活動を行っています。

2021年4月、開園された鶴ヶ島グリーンパーク内に太田ヶ谷の森ができました。旧農大跡地にあった広大な畑・牧草地への森づくりを始めることとなり、地元の自治会等の皆さんや環境団体、市役所と相談しながら一緒に取り組んでいます。わがクラブにとって森を新規に作るということは初めての経験であり、植える樹種を何にするか、植樹の時期は、その後の管理をどうしていくのか等、試行錯誤が始まっています。本年度の植樹実績は小彼岸桜を4月に道路沿いに59本、クヌギ、コナラ、ムクなどを7月に里山体験会で市民の皆さんと32本、9月に市制30周年の記念植樹祭で110本、10月に大谷川沿いに42本、その他を含め、11月時点で合計291本を植えています。

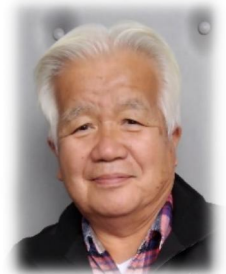
森が成熟するには20年～30年かかります。また、植樹した幼木も台風や害虫、気候変動などでどのくらい生き残れるのか未知数です。わがクラブの平均年齢は70歳を超えているので、完成した森を見ることが出来る会員はいるのか、森づくりは長いタームで見なければいけません。いずれにしても鶴ヶ島市という平地に5.5haの森を新規に作るという取組は内外でもあまりないのではと思います。当方としては落葉広葉樹を主体とした森を考えていますが、今後、様々な意見を集約しワクワクする・楽しみな森づくを続けていければ良いなと思っています。現在の地球規模の課題となっている温暖化対策への貢献にも期待できる取組となります。



少年時代を生きる喜び

上見 詩雄

つるがしま里山サポートクラブに入会して十年目になります。定年退職したら酒浸りになるなよ、何かしろ、趣味に生きるのもよし、できれば短時間の仕事を探して働け、さもないとボケ老人になって早く死ぬよ。とにかく体を動かし頭を使い毎日家を出て歩くことだよ。そうしなきゃ体が衰退する一方とOB会で先輩が言う。折角此処まで健康で無事で何とか並みに生きて来れて本当に良かった、世間に少しでも恩返しをしなきゃという気持ちで入会した。本音はまだまだ死ぬもんかです。私の出身は石川県中能登町です。鶴ヶ島の山林や田畑の風景が育った所に良く似ていて嬉しい限りなのでボランティア活動が実に楽しい。それに幼い頃に経験した痛い目や辛い事、道具の扱いに作業の手順も知っている。幼い頃にガキ大将に随って野山を駆けずって昆虫、川魚、鳥、小動物(兎)等を追い捕まえるのが大好きでしたからね、だから生態等を知っていて、何処に行ったら捕まえられるのかを子供達に教えるのが実に楽しい。12月は正月の門松作りがあります。自分が子供の時に竹スキーを作った経験が応用できるのが楽しい。竹の節目を斜めに鋭く切る(笑福カット)で作る門松が新年を笑顔にしてくれます。教えるよう！是非来て下さい。



10月～12月の主な活動

この三か月間は行事が山積、会員は忙しく活動しました。「里山サポートクラブもろやま」の設立して最初の行事「大類の森プレーパーク」が開かれました。私達の友会の発展を期待します。坂戸の一二三富の会のプレーパークにも参加しました。

藤小3年生の屋外学習の成果発表会は教室でなく藤金の森の中で行われ我々は父兄と共に聞かせて貰いました。活動拠点が高倉の森、五味ヶ谷の森、藤金の森に加えて太田ヶ谷の森が加わり活動は増加の一途です。12月に16年振りに芋煮会を開きました。来年は一般に募集する行事にするか夢は拡がります。12月は門松作りの行事を開きました。この行事は人気で2か所に出張参加です。



10月～12月 実施

- 10/ 2(土)毛呂山プレーパーク応援
- 10/ 5(火)藤小自然学習の協力
- 10/ 6(水)藤金市民の森整備
- 10/16(土)太田ヶ谷市民の森整備
- 10/19(火)藤小自然学習の協力
- 10/30(土)一二三富の会プレーパーク応援
- 10/31(日)五味ヶ谷市民の森整備
- 11/ 5(金)太田ヶ谷の森植樹記念碑設置
- 11/ 6(土)五味ヶ谷整備
- 11/13(土)藤小枝処理
- 11/21(日)大谷川整備
- 11/26(金)藤小発表会
- 12/ 4(土)みんなで芋煮会
- 12/12(日)五味ヶ谷の森整備
- 12/18(土)一二三富の会門松作り応援
- 12/25(土)みんなで楽しむ門松作り

1月～3月 計画

- 1/ 5(水)高倉市民の森整備
- 1/15(土)木工教室
- 2/ 5(水)五味ヶ谷の森整備
- 2/16(水)小彼岸桜根巻作業
- 2/26(土)藤金の森整備
- 3/ 5(土)太田ヶ谷の森
- 3/12(土)太田ヶ谷の森整備
- 3/23(水)小彼岸桜移植

門松作りの楽しさ

NPO 法人つるがしま里山サポートクラブの門松教室は、整備・管理している五味ヶ谷市民の森の孟宗竹を有効利用する目的で始まりました。2007年に市役所や市民センターに寄贈するため、五味ヶ谷市民の森で大型の門松を作っている写真が残っています。市民の森には真竹もありましたので、会員用に真竹3本の下部を藁縄で巻いたタイプのミニ門松も作りました。

2009年の12月に、北公民館（現北市民センター）より、門松教室開催の依頼がありました。孟宗竹のお椀に真竹3本を差し込み、白い小石で固定したミニ門松を提案し、15組ほど作りました。少しですが孟宗竹の需要が増えました。主に室内に飾る門松です。

2011年から東市民センターで毎年門松教室を開催しています。そして、孟宗竹を大量に使うジュニア門松を考案しました。直径10cmほどの孟宗竹の先端を30度の斜めに切り、長さ60cmの竹を真ん中に左右の竹を短くきり、3本をまとめます。下部を樹木の保護に使う幹



巻きテープを巻き、わら縄で縛り固定します。これに若松2本と梅一枝、南天1本を加えて基本の門松片側ができます。左右の門松を作り、紙飾りなどをつけ足して、門松の完成です。大型門松を上からつぶしたイメージです。「ねんどろいど」のようなかわい門松で、野外に飾れ

吉井 優



ます。

つるがしま里山サポートクラブの設立までの思い出

小澤 邦

NPO 法人つるがしま里山サポートクラブの活動は、市の呼びかけからはじまり、今年で足かけ 20 年の活動となりました。これらの活動の経緯を思い出し、沢山の市民の方々の支援で活動が継続できたことに感謝しながら、思い出を書いてみたいと思います。

2002年に鶴ヶ島市役所の都市計画課より広報で、「市民の森」の整備を行う「森林ボランティア」の募集が行われた。これに応じた市民が26名あり、都市計画課の皆さんの指導により、一年間の活動を続けました。当時の課長さんが、現在も里山サポートクラブの監事をお願いしている吉田さんです。約20年のおつきあいです。

この一年間は、「高德市民の森」を中心に草刈り、刈払機の使い方などを教わりながら、活動を続けました。また、「高倉の市民の森」での初めての取り組みは、森を放置するとこんなに樹木や雑草が密集し、人も入れないような森になってしまうのだということを実感し、市民の方々が利用できるように整備が必要だと思ったところです。

このような、市の呼びかけによる森での活動は、私にとっては、初めてで新鮮な体験と同時に市内の緑の減少が気になっていたことから、大切な活動と感じたところです。



市の呼びかけによる活動写真

一年目の活動の終盤には、市から市民団体の創設の提案が有り、参加されている有志の方と協議し、大切な活動であるので、活動を継続しようということとなり、2003年3月29日につるがしま里山サポートクラブの設立総会を開催し、会を発足することとなりました。会として市民活動の開始は、2003年4月ということとなります。当時の会の規約では、以下の内容としており、この精神はこれからも継続したいものです。
(続く)

県知事表彰を受賞しました。

11月2日、埼玉会館大ホールにて開催された埼玉県社会福祉大会において、当クラブが埼玉県知事表彰(ボランティア部門)を受賞しました。表彰理由は、現に社会福祉事業のボランティア団体として10年

(目的)

第2条 本クラブは、市内に残された里山(樹林地)の保全・回復活動を通して、会員相互の親善を図るとともに、良好な樹林地を未来に継承していくことを目的とする。

(活動)

第3条 本クラブは、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- (1) 人の手を必要としている樹林地の下草刈り、枝打ち等の維持管理を行う里山サポート活動
- (2) 里山を活かしたレクリエーション等の交流活動
- (3) その里山の保全活動

2. 活動への参加は自由参加とし、誰もが、参加できるときに無理せず参加することとする。

授埼玉県知事表彰を受賞しました

以上にわたり率先して活動を行い、その功績が特に顕著であり、他の模範であると認められたものです。尚、本年度の鶴ヶ島市の受賞者数は個人は10人、団体は10団体です。

太田ヶ谷の森で見られる花

島崎 洋

3月下旬から4月上旬頃、まだ木々が芽吹く前の明るい雑木林の林床を、タチツボスミレの薄紫、クサボケの朱色の花が彩ります。ヤマザクラが咲くのもこの頃で、コブシの白い花を見ることもあります。水路沿いや林縁の道沿いではニョイスミレの白い花やムラサキケマン、ヘビイチゴ、ムラサキサギゴケなどが見られます。雑木林はコナラやクヌギといった落葉樹を主体とし、エノキ、ムクノキ、ヤマザクラ、ウワミズザクラなどが交ります。

4月下旬頃から5月にかけては、水路沿いにフジの長い花穂が垂れ、ミズキが白い花を咲かせます。ハナミズキに比べると地味ですが、一個一個の花はこちらの方が立派です。クサイチゴやキラソウ、タチシオデ、コナスビなどが次々に咲き、夏に向かいます。湧き水を復活させたビオトープの付近には準絶滅危惧種のみぞこウジュも見られます。

夏から秋にかけてはヤブミョウガ、ハエドクソウ、ヒヨドリバナ、ミズヒキが咲き、カリガネソウの紫が涼しげです。秋にはムラサキシキブの実が薄紫に熟します。

水路の脇にはシダが10種ほど見られます。その中でリョウメンシダは丘陵地や低山地の谷沿いに生育し、山地では普通に見られますが、平地ではかなり珍しいと思われる。希少種ではありませんが、鶴ヶ島辺りが分布境界と考えられ、大切にしたい植物です。

また、林の中に希少植物を保護しているエリアがあります。これは工業団地造成前に環境影響評価を行った際、工場予定地で見つかった希少植物を移植したものです。鶴ヶ島市の許可を得なければ立ち入って見ることはできません。「島崎洋：つるがしまの自然を守る会会員」



タチツボスミレ



ニョイスミレ



クサボケ



コブシ



ミズキ



ヒヨドリバナ



カリガネソウ



リョウメンシダ

編集後記

9月に市制30周年記念植樹祭が新しくできた太田ヶ谷の森で行われました。市民が散策と運動する公園として運動公園があります。その直ぐ近くにあるのが太田ヶ谷の森です。こちらは市と市民が協力してできる限り自然の森にしようとしています。当クラブはこの森の創成に積極的に活動しています。この記念碑設置作業は当クラブが行いました。会員の平均年齢は70歳を超えていますが30年後の自然の森を目指しています。貴重な植物の保存も大きな課題です。皆様の協力を期待します。今号から当クラブの創成から20年間の歴史を掲載します。ホームページ：<http://www.satoyamasupport.com/>